

嘉麻市

「福岡県立山田高等学校跡地」

利活用推進基本計画



平成31年3月

嘉麻市

目次

序章	はじめに	1
第1章	基本計画の策定にあたって	2
	1. 基本計画策定の背景・目的.....	2
	2. これまでの検討経緯	2
	3. 計画の位置づけ.....	3
第2章	対象敷地を取り巻く状況	4
	1. 嘉麻市について.....	4
	2. 対象敷地の位置.....	5
	3. 対象敷地と周辺の情報について.....	6
第3章	福岡県立山田高等学校について	12
	1. 福岡県立山田高等学校の歴史.....	12
	2. 福岡県立山田高等学校敷地の変遷	12
	3. 福岡県立山田高等学校敷地内建物の現状.....	14
	4. 同窓会館とモニュメント	18
	5. 平成30年7月豪雨による被災状況について	19
	6. グラウンド敷地について	21
第4章	嘉麻市「福岡県立山田高等学校跡地」利活用推進協議会	22
	1. 協議会の開催状況.....	22
	2. 協議会への諮問内容	24
	3. 協議会からの答申内容	24
第5章	土地利用の方向性	26
	1. 人口・世帯数の動向	26
	2. 敷地周辺土地利用状況	27
	3. 嘉麻市における公共施設の現状.....	29
	4. 周辺道路の整備状況	30
	5. 法適用の整理	31
第6章	ゾーニング計画.....	32
	1. 上位関連計画等との整合性.....	32
	2. 跡地利活用のコンセプト	36
	3. 跡地利活用のゾーニング計画.....	37
第7章	配置計画案について	39
	1. ゾーニング計画を踏まえた配置計画案（案1～案3）	39
	2. 配置計画案の比較検討	42
第8章	まとめ	43

平成18年に1市3町が合併し、嘉麻市が誕生して13年が経過しました。

この間、本市では第2次嘉麻市総合計画をはじめ新庁舎の建設、支所や市内の拠点整備、交通体系の形成等に関する計画策定を進めてまいりました。今後の10年間はこれらの計画に基づき事業に着手していく重要な期間であると認識しております。平成30年3月には「嘉麻市地域整備基本計画」を策定し、支所の設計や各庁舎資産の利活用、周辺地域の整備に着手しているところでございますが、計画策定にあたり設置をしておりました、山田地域整備協議会答申において、山田地域の整備を進めるにあたっては「旧山田高等学校跡地について関係団体と協議し、利活用について検討すること。」と示されたことにより、検討が中断していた福岡県立山田高等学校跡地の利活用に関して協議を行うことといたしました。

さて、福岡県立山田高等学校の歴史は、太平洋戦争末期という時代背景の中、山田町における石炭増産の急務から生産にあたる職員の人口流入、増加に伴う教室不足を解消するため「山田町立国民学校高等科」の設置が決定したことに始まります。地域住民による一銭貯金や全行政区からの輪番制勤労奉仕の実施等、全町民が一丸となって事業にあたる事で福岡県の許可を取り付けた経緯がございます。

その後、福岡県より中等学校の不足に伴う敷地の寄附依頼があったことから建設中であった「山田町立国民学校高等科」の建物を含む敷地の寄附が行われ、福岡県立山田高等学校の前身である『福岡県立山田中学校』が設立されました。

このように福岡県立山田高等学校の敷地は地域住民の一方ならぬ思いで開墾整備され、多くの同窓生の思い出が詰まっている場所である事が分かります。また、地域住民の寄附や存続要望の活動等によって現在地に建設された、嘉麻赤十字病院とも隣接していることから山田地域のみならず本市の将来のまちづくりを行う上で、大変重要な役割を担う場所であると考えております。

現在、嘉麻市内には校舎及び跡地の利活用が待たれる学校施設等が多く存在します。既に利活用がなされているものや、利活用に向けた調整が行われているものもありますが多くの施設は、活用に関する方針が未だ決まっておらず、有効活用に向けた具体的な取り組みの推進が課題となっております。

福岡県立山田高等学校の跡地においては本計画を基に早期に有効活用の実現を図り、新たなまちづくりの推進に繋げて参ります。

結びに、本計画策定にあたり、貴重なご意見・ご提言を賜りました市民の皆様をはじめ、ご審議を賜りました、嘉麻市「福岡県立山田高等学校跡地」利活用推進協議会の委員の皆様、関係者各位に対しまして心よりお礼申し上げます。今後は本計画の実現に向け、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

嘉麻市長 赤間 幸弘

第1章

基本計画の策定にあたって

1. 基本計画策定の背景・目的

福岡県では平成11年度に県立高等学校再編整備基本計画が策定され、以後、県立高校の統廃合が実施されてきた。嘉麻市内にはかつて3校の県立高校施設があったが、このうちの福岡県立山田高等学校、福岡県立嘉穂工業高等学校の2校が再編計画の対象となり、福岡県立山田高等学校は平成19年4月から現在に至るまで閉校時そのままの状態が続いている。今後のより良い跡地の利活用を推進していく事を目的に「嘉麻市福岡県立山田高等学校跡地利活用推進基本計画」を策定することとした。

2. これまでの検討経緯

閉校に伴い、跡地の利活用については継続して協議、検討を行ってきた。

平成20年3月より隣接する嘉麻赤十字病院との協議を開始し、外来駐車場、移転先の候補地として協議を行ってきた。平成21年5月には「嘉麻赤十字病院の充実と旧山田高等学校跡地の医療的活用に関する請願書」が提出され採択された。平成24年11月には「嘉麻赤十字病院の建替え存続を求める要請書」が山田地区行政区連合会から嘉麻市へ提出された。

しかし、平成29年2月に嘉麻赤十字病院から移転断念の報告を受け、同年6月に「嘉麻市山田高等学校跡地整備検討委員会」を設置し、庁内において再び検討を重ねることとした。

その後、平成29年11月の嘉麻市山田地域整備協議会の答申において、「旧山田高等学校跡地について関係団体と協議し、利活用について検討すること。」と示されたことにより、平成30年2月に嘉麻市「福岡県立山田高等学校跡地」利活用推進協議会を設置し、旧山田高等学校跡地の利活用方法について、市民と協議、検討を行うこととした。

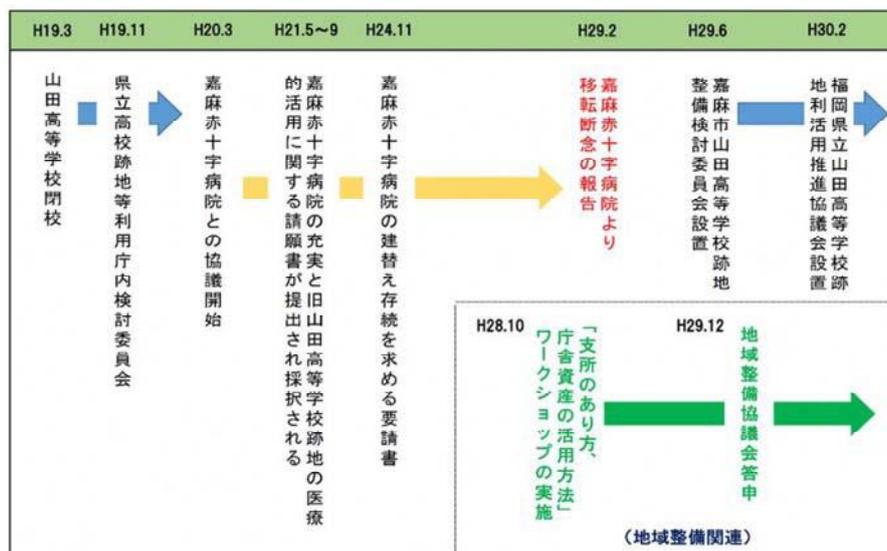


図1 過去の検討の経過

3. 計画の位置づけ

本計画では、「第1次嘉麻市総合計画」「第2次嘉麻市総合計画」「まち・ひと・しごと創生 嘉麻市人口ビジョン・総合戦略」を上位計画とし、関連計画の「嘉麻市地域整備基本計画」との整合性も図り策定するものである。

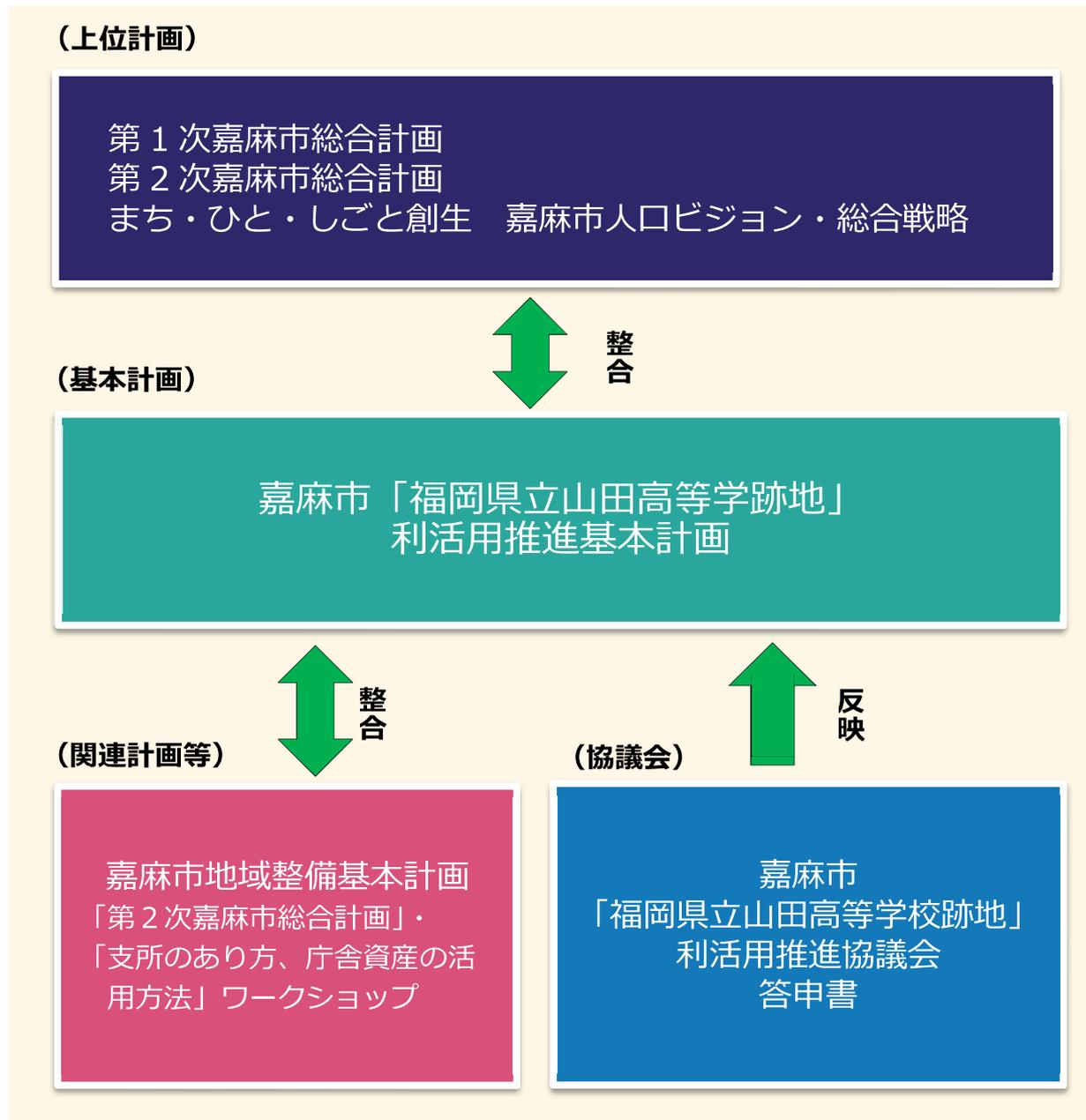


図2 嘉麻市「福岡県立山田高等学校跡地」利活用推進基本計画の位置づけ

第2章

対象敷地を取り巻く状況

1. 嘉麻市について

本市は平成18年3月に旧山田市・旧稲築町・旧嘉穂町・旧碓井町の合併により誕生した。面積135.11km²で福岡県のほぼ中央に位置し、北は飯塚市に、東は田川市、川崎町、添田町に、西は桂川町に、南は朝倉市、東峰村にそれぞれ接している。かつて筑豊有数の炭鉱都市として栄えたが、現在はすべて閉山している。

気候は、夏冬、昼夜の気温差がかなりあり、内陸性気候の特徴を示している。寒暖の変動が激しい地域で、雪が降ると積雪することもある。南部は古処・屏・馬見連峰、南東部は戸谷ヶ岳、熊ヶ畑山などの山林で、そこを源とする遠賀川をはじめとする河川が南から北に流れ、市の北部及び北西部に流域平野を形成している。また、新市全体の約72%が森林と耕作地で、多様な生態系を保護する山林や河川流域に広がる生産緑地などの水と緑が豊富な地域である。また、本市は県央に位置しているため、広域的なアクセス性を高めることにより、企業誘致や観光交流等の可能性を高めることも可能である。

(嘉麻市の位置)

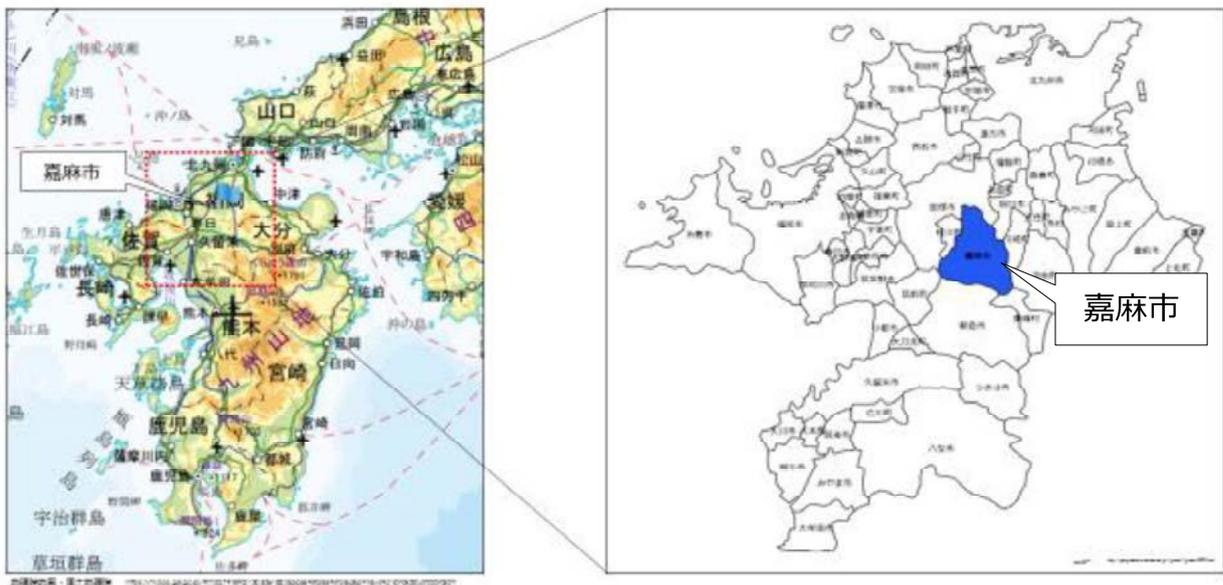


図3 嘉麻市の位置

福岡県嘉麻市

- ・面積 135.11km²
- ・人口 38,295人
- ・世帯 18,683世帯

平成31年1月31日現在

2. 対象敷地の位置

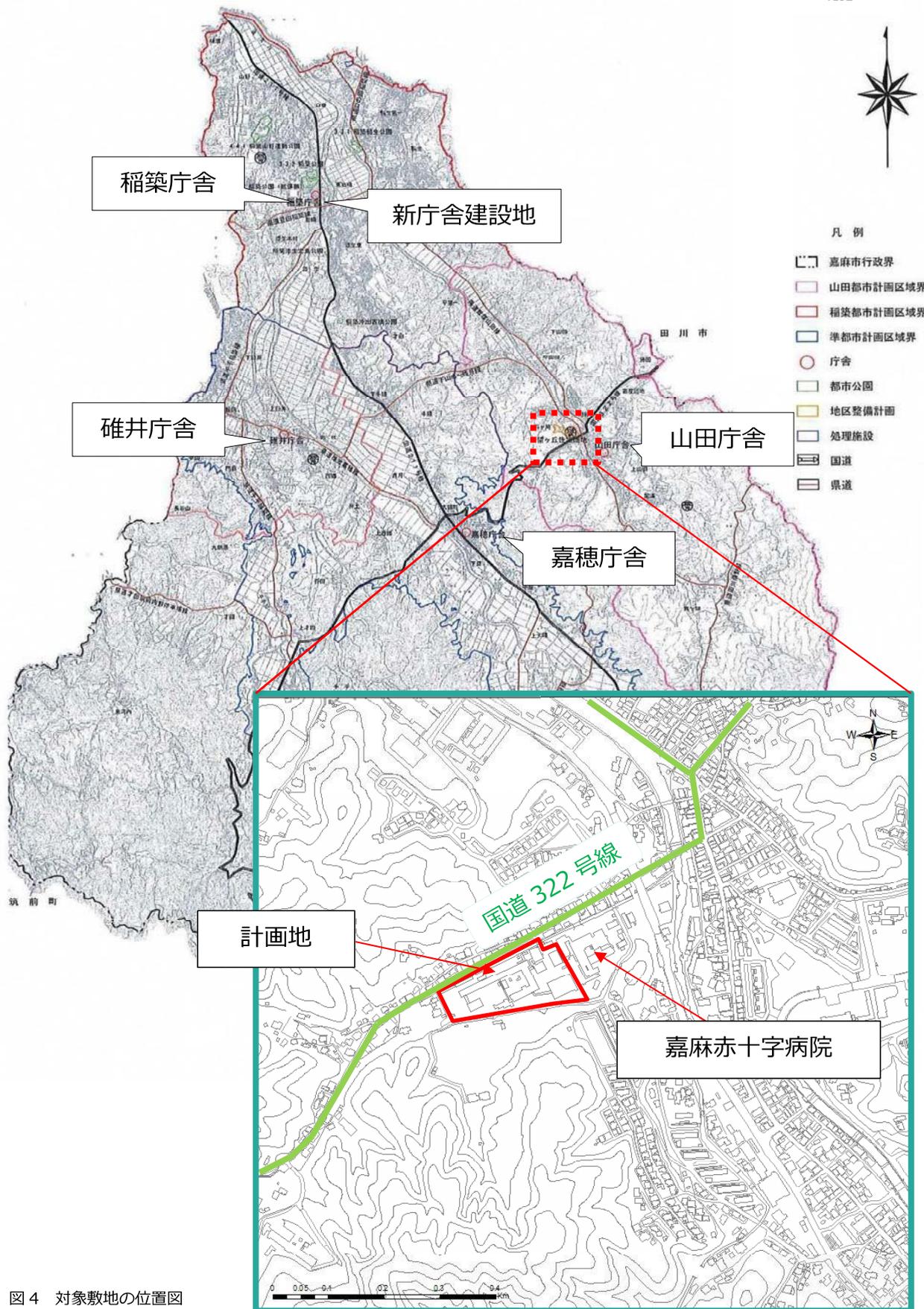


図4 対象敷地の位置図

3. 対象敷地と周辺の情報について

対象敷地は、山田地区の中央部、嘉麻市上山田の谷あい位置しており、校舎部分の約19,102.66㎡である。敷地南側部分は市道（黄色線）を挟み、グラウンドに接しており市道の奥には民家2軒が存在する。北側は蛍の生息するサワラテ川を挟み、アクセス道路である国道322号線（水色線）に接している。国道322号線を東側に向かうと山田の市街地に繋がる。敷地周囲には住宅地が広がっており、旧大橋小学校跡地の利活用として整備された分譲宅地も存在する。東側は嘉麻赤十字病院に隣接しており、同窓会館北側の通路を通れば徒歩で直接アクセスすることも可能である。



図5 対象敷地と周辺図

(表1 対象敷地土地情報)

	地番	地目	所有	敷地面積
①	上山田 1244-5	学校用地	福岡県	12,051.00 ㎡
②	上山田 1683-120	学校用地	福岡県	5.66 ㎡
③	上山田 1683-240	学校用地	福岡県	7,046.00 ㎡
合計				19,102.66 ㎡

(対象敷地周辺の情報)

(表 2 対象敷地周辺情報)

項目	
道路	・国道 322 号線（北側）市道（南側）
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・嘉麻赤十字病院（徒歩 1 分） ・嘉麻市役所山田庁舎（徒歩 10 分） ・山田支所建設予定地 生涯学習館 嘉麻市立図書館（徒歩 8 分） ・市民センター（徒歩 7 分）・上山田住民ホール（徒歩 12 分） ・嘉麻市立上山田小学校（徒歩 15 分）・嘉麻市立山田中学校（徒歩 5 分） ・最寄り保育園（徒歩 10 分）
その他施設	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄りコンビニエンスストア（徒歩 2 分） ・最寄り金融機関（徒歩 10 分圏内） ・最寄り病院（徒歩 10 分圏内 3 施設） ・郵便局（徒歩 7 分）
公共交通 (図 9 参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・西鉄バス バス停 (大橋まで徒歩 5~10 分) 西鉄バス 23 番系統 新飯塚駅 飯塚バスターミナルまでアクセス可能 ・嘉麻市バス バス停 (日赤病院前まで徒歩 2 分) ⇒山田バス 熊ヶ畑桂川線 碓井庁舎 桂川駅まで直接アクセス可能 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 便によって異なる (旧山田高校まで徒歩 1 分) ⇒山田バス カッホー馬古屏・坂谷線 坂谷…田川市コミュニティバスに乗継可能 上牛隈…西鉄バス 12 番、27 番系統に乗継可能 カッホー馬古屏横（仮称）バスステーション建設予定地 西鉄バス、市バスへ乗継可能 ⇒嘉穂バス 市内周回線 嘉穂庁舎 碓井庁舎 稲築庁舎へアクセス可能 嘉穂庁舎…西鉄バス 12 番、27 番系統に乗継可能 碓井庁舎…西鉄バス 27 番系統に乗継可能
インフラ	<p>上水道 前面道路内の水道本管から引き込み。計画地は上水道整備区域内に含まれる。そのため、大容量の上水道を使用する企業等の誘致には給水量確保のための検討が必要であるが、給水使用量が標準的な施設の導入等は可能である。</p> <p>電気 九電による電柱配線</p> <p>ガス プロパンガス</p>

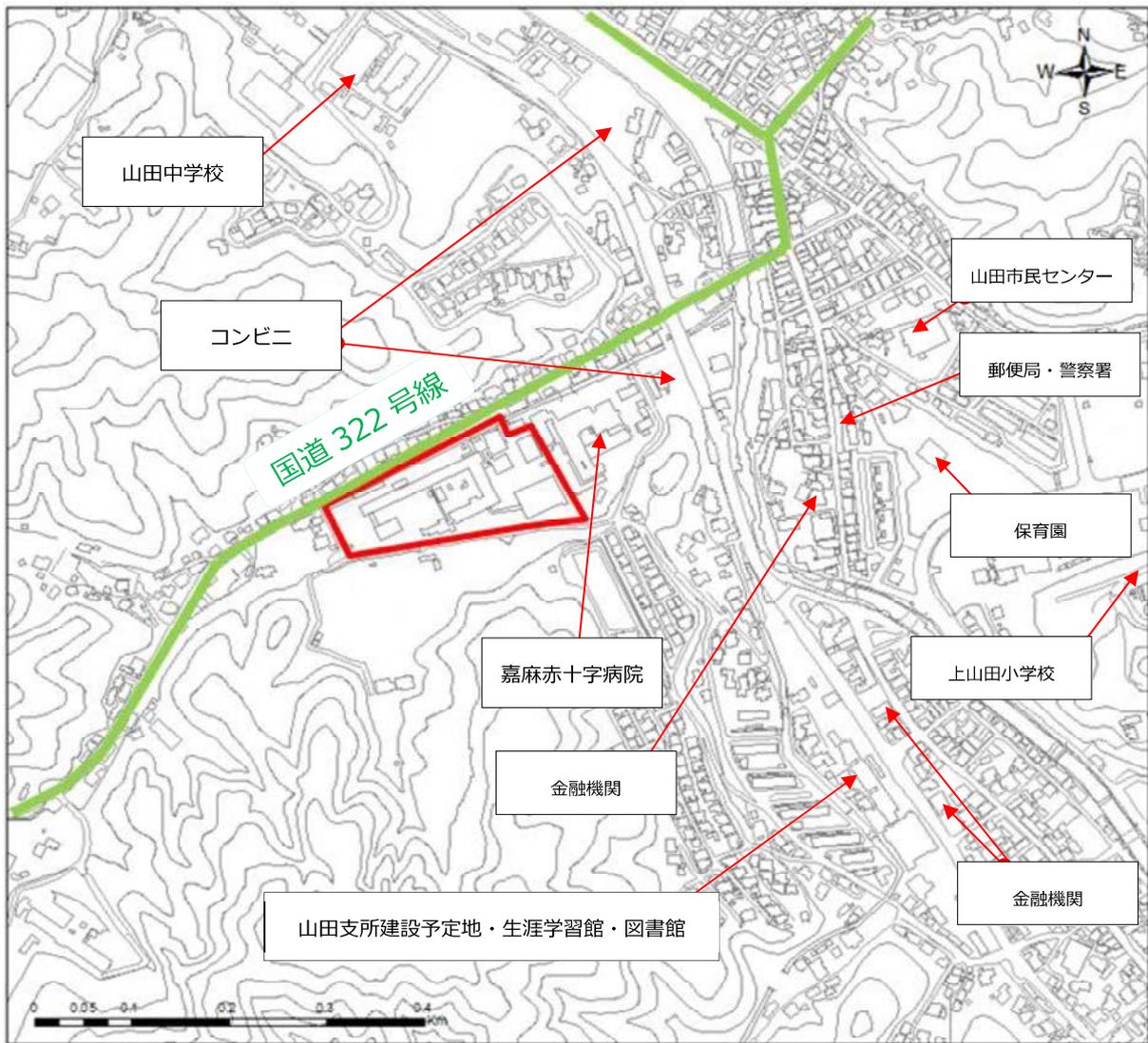


図6 対象敷地周辺情報図

対象敷地周辺には公民館や公共施設、学校等の施設も充実している。コンビニエンスストアも2軒存在しており、山田支所建設予定地である山田生涯学習館や嘉麻市立図書館、金融機関、郵便局も徒歩10分圏内に位置しているため利便性に恵まれている。

敷地周辺は公共交通の環境も整っている。公共交通のバス停は徒歩10分圏内に8路線のバス停が設置されている状況である。熊ヶ畑桂川線を利用することで桂川駅、碓井庁舎（便によって異なる）までもアクセスすることができ、通勤通学、通院にも便利である。

各庁舎には市内周回線でアクセスが可能である。

(対象敷地周辺の情報整理)



図7 対象敷地周辺市道、山林図

国有地

・・・ 国有林

市道

・・・ ① 市道サワラテ・杉町線
 ② 市道サワラテ 1号線
 ③ 市道サワラテ 2号線

(表3 対象敷地周辺市道情報)

	地番	地目	所有	敷地面積
①	上山田 1237-13	公衆用道路	嘉麻市	437 m ²
②	上山田 1304-1	公衆用道路	嘉麻市	1,060 m ²
③	上山田 1301-5	公衆用道路	嘉麻市	221 m ²
合計				1,718 m ²

市有地

・・・ ④ 山林 ⑤雑種地 ⑥宅地

(表4 対象敷地南側 市有林情報)

	地番	地目	所有	敷地面積
④	上山田 1683-77	山林	嘉麻市	15,187 m ²
⑤	上山田 1305	雑種地	嘉麻市	148 m ²
⑥	上山田 1304-3	宅地	嘉麻市	152.51 m ²
合計				15,487.51 m ²

(対象敷地周辺の情報整理)

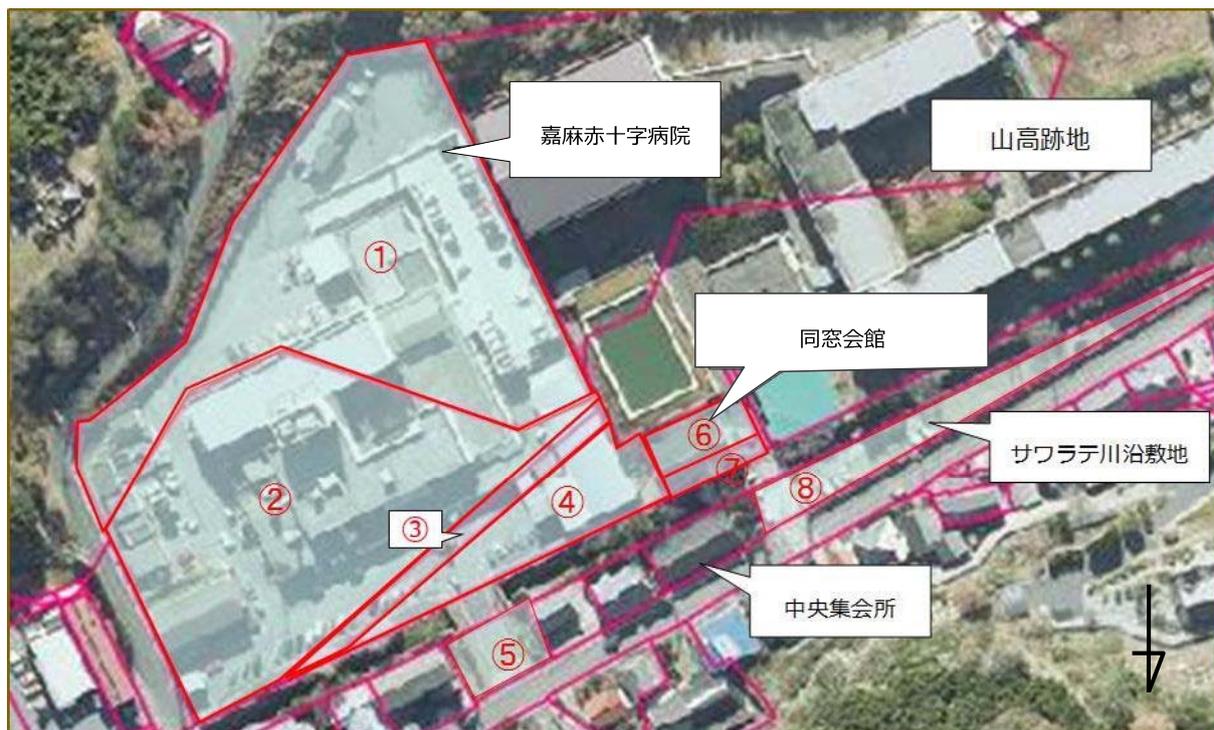


図 8 対象敷地周辺図

● 嘉麻赤十字病院敷地

(表 5 対象敷地東側 嘉麻赤十字病院敷地情報)

	地番	地目	所有	敷地面積
①	上山田 1683-121	宅地	嘉麻市	5282.53 m ²
②	上山田 1237-2	宅地	嘉麻市	4975.86 m ²
③	上山田 1237-3	公衆用道路	嘉麻市	378 m ²
④	上山田 1237-8	宅地	嘉麻市	964.17 m ²
⑤	上山田 1239-1	宅地	嘉麻市	317.71 m ²
合計				11918.27 m ²

● 同窓会館及びサワラテ川沿い敷地

(表 6 対象敷地北側 同窓会館サワラテ川沿い 敷地情報)

	地番	地目	所有	敷地面積
⑥	上山田 1237-9	学校用地	嘉麻市	270 m ²
⑦	上山田 1237-10	学校用地	嘉麻市	98 m ²
⑧	上山田 1241-1	宅地	嘉麻市	802.54 m ²
合計				1170.54 m ²

(市内全域の公共交通全路線)

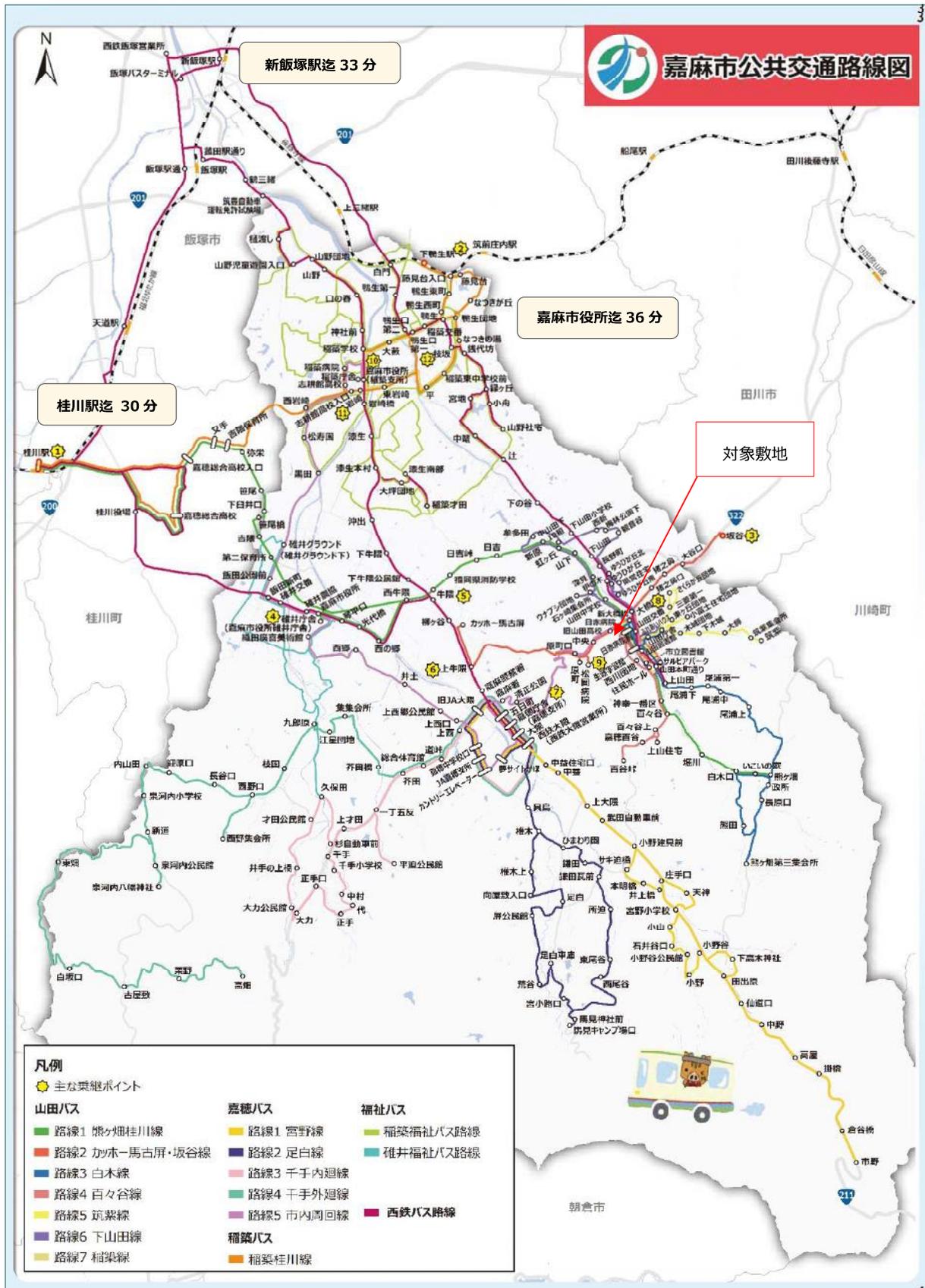


図9 嘉麻市公共交通市内全域路線図

第3章

福岡県立山田高等学校について

1. 福岡県立山田高等学校の歴史

福岡県立山田高等学校は当時、山田町において「山田町立国民学校高等科」の設置が決定したことに始まる。地域住民による一銭貯金や全行政区からの輪番制勤労奉仕の実施等、全町民が一丸となって事業にあたる事で福岡県の許可を取り付けた経緯がある。その後、福岡県から中等学校の不足に伴う敷地及び建物の寄附依頼があり「山田町立国民学校高等科」の建物を含む敷地の寄附が行われ、福岡県立山田高等学校の前身である『福岡県立山田中学校』が設立された。

(福岡県立山田高等学校の歴史概要)

(表7 福岡県立山田高等学校歴史年表)

年 月 日	沿 革
昭和 17 年	福岡県議会に於て山田中学校設立決定
昭和 18 年	設立認可 定員を 600 名に設定 福岡県立山田中学校開校
昭和 19 年	県立山田工業学校新設決定 県立山田工業学校夜間採鉱科開設許可
昭和 22 年	県立山田工業学校機械科増設許可
昭和 23 年	県立山田中学校及び県立山田工業学校第 1 回卒業式挙行
	山田中学学制改革により県立山田高等学校となる
	山田工業学校学制改革により県立山田工業高等学校となる
	山田工業高等学校定時制課程（普通課程）設置
昭和 24 年	財団法人嘉穂工業高校が県営に移管され、山田高等学校へ統合。
昭和 29 年	山田町は市制施行により山田市となる
昭和 32 年	山田高校の全日制工業部が福岡県立嘉穂工業高等学校として独立
昭和 42 年	第 2 運動場竣工
昭和 48 年	武道場竣工
昭和 50 年	図書館竣工
昭和 59 年	プール完成
平成 19 年	県立山田高等学校閉校

2. 福岡県立山田高等学校敷地の変遷

山田市史によると「山田町立国民学校高等科」の設置が決定した当時、当該敷地は山田町の所有する敷地であり、町民によって建設予定地の開墾がなされていった様子が記されている。その後『福岡県立山田中学校』の設立に伴い、福岡県より建物を含む敷地の寄附依頼があり昭和 17 年に最初の寄附が行われている。その後、昭和 37 年、昭和 46 年と山田市から敷地の寄附が行われており、昭和 44 年には福岡県の購入した敷地の払い下げ金の寄附も行われている。これらの経緯を経て、現敷地については福岡県の所有となっている。

(敷地の変遷)



図 10 対象敷地の変遷図

(寄附条件)

- (1) 将来県において、当該中学校経営上、山田中央国民学校を分離するの必要を認めるときは、当該中学校はこれを山田町地区内に設置すること。
- (2) 前項により校舎を移転したるときは、県は山田町に対し当該中学校設置に伴ない同町より譲り受けたる校舎.これに附帯する設備並びに備品及び校地一切を無条件。無償にて譲渡すること。

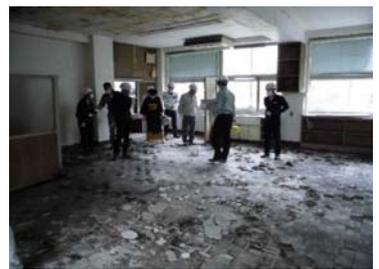
(寄附敷地番地)

大字：上山田

(表 8 寄附敷地番地)

地 番			
1244 番地 5	1245 番地 7	1301 番地 4	1302 番地 1
1303 番地 3	1304 番地 2	1307 番地 1	1308 番地 1
1308 番地 3	1309 番地	1310 番地 1	1311 番地
1312 番地	1313 番地 2	1301 番地 6	1302 番地 4
1310 番地 3	1683 番地 119	1683 番地 120	

● 建物内部の現状写真

		
<p>写真1 玄関前屋根</p>	<p>写真2 校長室</p>	<p>写真3 天井板崩落</p>
		
<p>写真4 2階会議室</p>	<p>写真5 2階会議室 天井板剥離</p>	<p>写真6 2F~3F 階段 天井亀裂</p>
		
<p>写真7 コンクリート剥離</p>	<p>写真8 窓ガラス破損箇所</p>	<p>写真9 和作法室天井板</p>
		
<p>写真10 体育館内部</p>	<p>写真11 多目的アリーナ梁たわみ</p>	<p>写真12 1階下駄箱</p>
		
<p>写真13 プール壁面</p>	<p>写真14 食堂外観</p>	<p>写真15 武道場内部</p>

(敷地内建物の現状整理)

※経過年数は平成 30 年度時点におけるもの

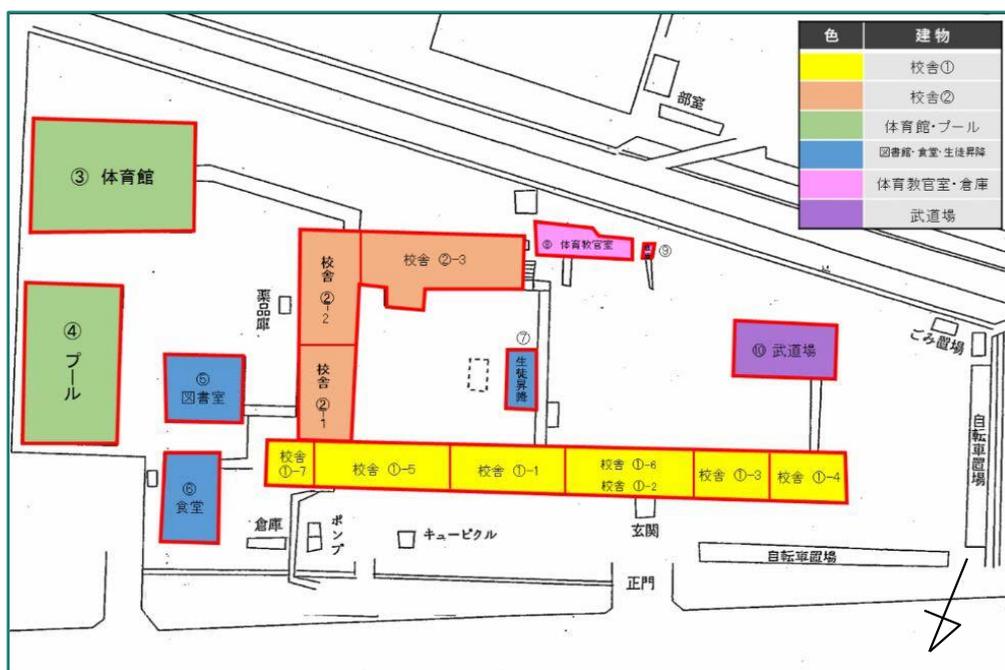


図 12 福岡県立山田高等学校敷地内建物別情報図

● 校舎①

(表 9 校舎①情報)

① 福岡県立山田高等学校校舎	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎①-1	3階	鉄筋コンクリート	S38.01	455㎡	55年	旧耐震基準
	校舎①-2	3階	鉄筋コンクリート	S39.02	555㎡	54年	旧耐震基準
	校舎①-3	3階	鉄筋コンクリート	S39.12	364㎡	53年	旧耐震基準
	校舎①-4	3階	鉄筋コンクリート	S42.03	853㎡	51年	旧耐震基準
	校舎①-5	3階	鉄筋コンクリート	S43.06	1,159㎡	49年	旧耐震基準
	校舎①-6	3階	鉄筋コンクリート	S44.02	410㎡	49年	旧耐震基準
	校舎①-7	3階	鉄筋コンクリート	S45.03	273㎡	48年	旧耐震基準

● 校舎②

(表 10 校舎②情報)

② 福岡県立山田高等学校校舎	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎②-1	3階	鉄筋コンクリート	S45.03	692㎡	48年	旧耐震基準
	校舎②-2	3階	鉄筋コンクリート	S45.03	1,005㎡	48年	旧耐震基準
校舎②-3	3階	鉄筋コンクリート	S47.03	1,375㎡	46年	旧耐震基準	

● 体育館・プール

(表 11 体育館、プール情報)

③ 体育館	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	屋内運動場	2階	鉄筋コンクリート	H01.02	2,369㎡	29年	新耐震基準

④ プール	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	屋内運動場	2階	鉄筋コンクリート	S59.03	203㎡	34年	新耐震基準

● 図書室・食堂・生徒昇降

(表 12 図書室・食堂・生徒昇降情報)

⑤ 図書室	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎	2階	鉄筋コンクリート	S50.01	607㎡	43年	旧耐震基準

⑥ 食堂	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎	1階	鉄骨その他造	S53.01	279㎡	40年	旧耐震基準

⑦ 生徒昇降	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎	1階	鉄筋コンクリート	S44.03	99㎡	49年	旧耐震基準

● 体育教官室・倉庫

(表 13 体育教官室、倉庫情報)

⑧ 体育教官室	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎	1階	鉄骨その他造	S56.02	136㎡	37年	旧耐震基準

⑨ 倉庫	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	校舎	1階	鉄骨その他造	S47.01	21㎡	46年	旧耐震基準

● 武道場

(表 14 武道場)

⑩ 武道場	施設区分	階数	構造区分	建築年	保有面積	経過年数	耐震基準
	屋内運動場	2階	鉄骨その他造	S48.02	561㎡	45年	旧耐震基準
	部室	2階	鉄骨その他造	S48.02	24㎡	45年	旧耐震基準

4. 同窓会館とモニュメント

対象敷地と嘉麻赤十字病院の間には同窓会館が存在している。同窓会館は平成19年、閉校に伴い財団法人山田高等学校古峰会より地域振興のため嘉麻市に寄附が行われている。

また、敷地北側サワラテ川沿いの対岸に位置する市有地内には同窓会によって記念樹や各種記念碑が設置され、公園として活用されている。両敷地及び建物は検討対象には含まれていないものの、利活用に当たっては山田高等学校の歴史や15,000人以上の同窓生の軌跡を後世に伝えるため、活用の検討が必要となる。



写真16 同窓会館

これらの事から同窓会館及びサワラテ川沿いに存在するモニュメントに関する情報を以下のとおり整理した。

(同窓会館)

● 敷地情報

(表15 同窓会館敷地情報)

地番	地目	所有	敷地面積
上山田 1237-9	学校用地	嘉麻市	270 m ²
上山田 1237-10	学校用地	嘉麻市	98 m ²

● 建物情報

(表16 同窓会館建物情報)

建物の住所	構造	所有	延床面積
上山田 1237	鉄筋RC	嘉麻市	331.05 m ²

(サワラテ川沿い 寄贈モニュメント及び植樹)



写真17 記念碑 ①



写真18 記念碑 ②



写真19 モニュメント



写真20 記念碑 ③

● 敷地情報

(表17 サワラテ川沿い 敷地情報)

地番	地目	所有	敷地面積
上山田 1241-1	宅地	嘉麻市	802.54 m ²

5. 平成 30 年 7 月豪雨による被災状況について

平成 30 年 7 月豪雨の発生に伴い、福岡県立山田高等学校敷地も被災している状況である。被災箇所は図 13 のとおりである。

市道上、県有地の法面に土砂崩れが発生し、法面下にあった市道も大きく崩落している。黄色の線で示した市道は現在通行止めとなっており、その先に存在する 2 軒の住民は水色の線で示した市道を利用しているが、急傾斜であるため冬季の利用には注意が必要となり一刻も早い復旧が望まれる。また、法面の崩落に伴い、学校敷地内の建物に土砂が流入し用務員室も全壊しているほか、校舎一部にも被害が及んでいる状況である。

協議会においては紫色で示した箇所については法面下に位置していることから、今後の災害に対応するため、利活用にあたっては法面下から 5 m の敷地の利活用は行わず調整必要区域とした。

(被災状況)

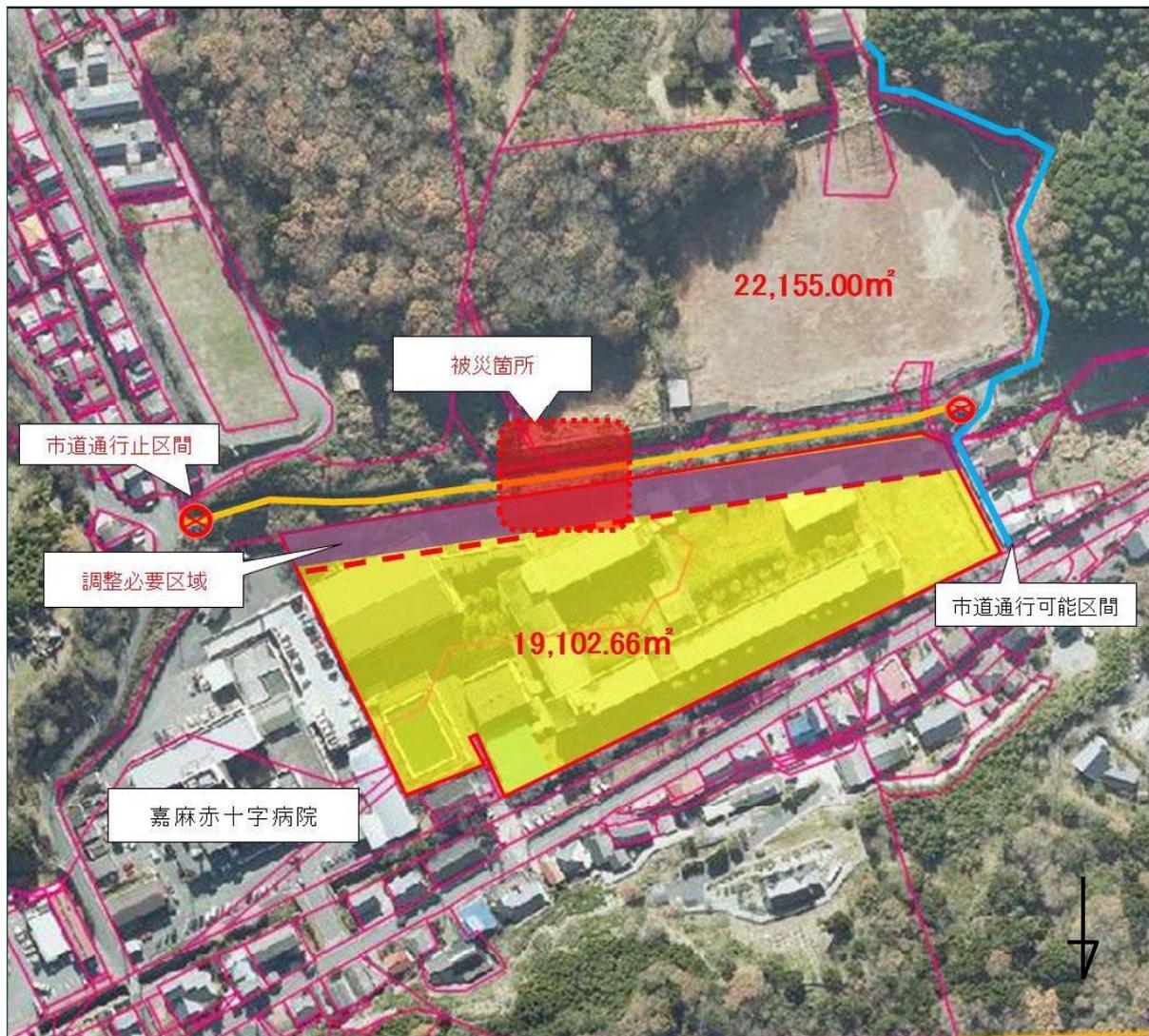


図 13 平成 30 年 7 月豪雨の被災による敷地周辺情報図

● 被災箇所の状況写真



写真 21 法面と市道



写真 22 法面の崩落

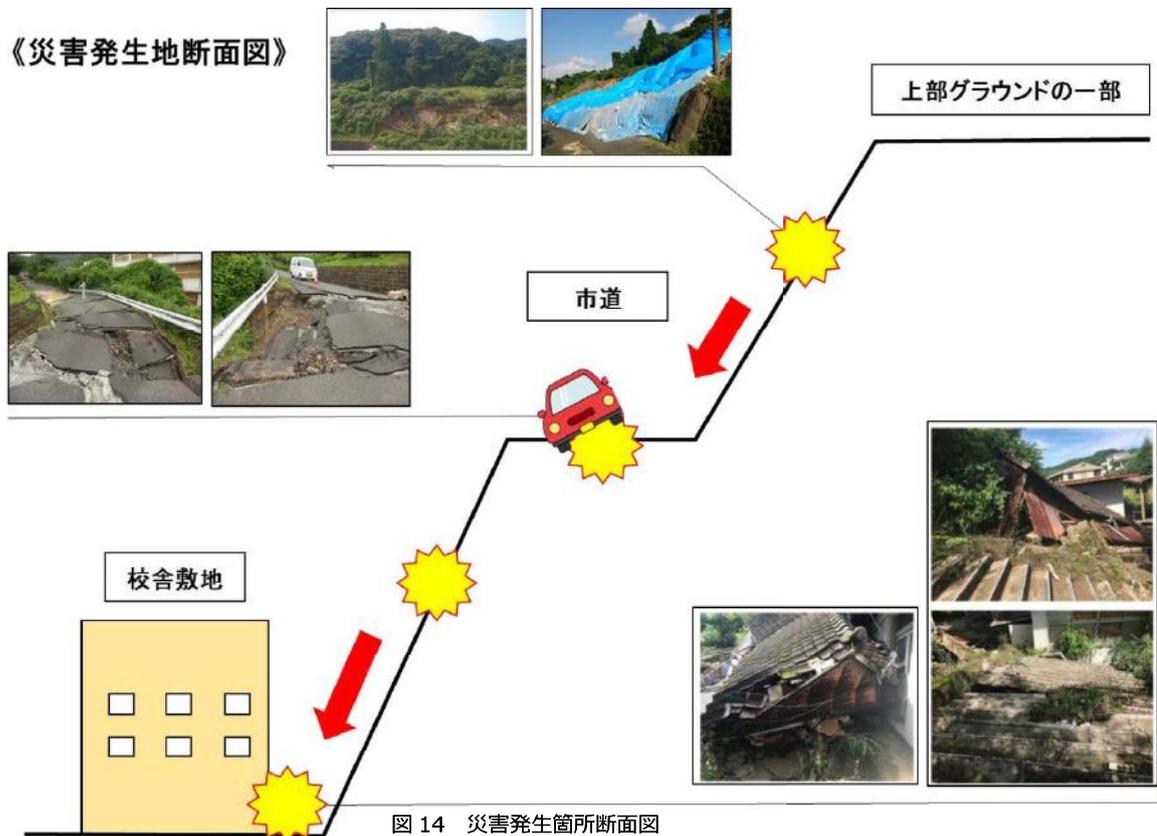


写真 23 市道の崩壊



写真 24 敷地内建物全壊

※写真 嘉麻市土木課、地域活性推進課撮影 嘉穂総合高校提供



6. グラウンド敷地について

当初、グラウンド敷地も校舎敷地と同様に跡地利活用の対象敷地と位置付け、協議会において検討を行ってきた。しかし、前述のとおり平成30年7月豪雨の発生に伴い、法面崩落の発生によってグラウンド敷地へアクセスする市道が寸断されている状況である。また、残された市道通行可能区間も狭く急傾斜の道路であることや、協議段階において今後の復旧の見通しが立っていなかったことから利活用の検討が困難となっていた。これらの状況を鑑み、協議会で今後の検討の継続について協議が行われた結果、「基本計画の策定にあたっては検討段階においてグラウンド敷地を対象敷地から除外し、校舎敷地のみの検討を行うこと」との決定がなされた。



写真 25 グラウンド

なお、次章で後述するが協議会の答申において以下の様に示されたことにより、被災箇所の復旧が行われた後、答申内容を考慮しながら検討を行うこととする。

(2) 跡地の利活用について

- ・グラウンド敷地は被災箇所の復旧が行われた後、前述の内容を考慮し検討を行うこと。

嘉麻市「福岡県立山田高等学校跡地」利活用推進協議会 答申より一部抜粋

(グラウンド敷地情報)



図 15 グラウンド敷地図

【今後の流れ】

福岡県法面復旧工事



嘉麻市市道復旧工事



グラウンド敷地利活用検討

※ 敷地内に陥没箇所あり

(表 18 グラウンド敷地情報)

	地番	地目	所有	敷地面積
①	上山田 1306-1	学校用地	福岡県	978.00 m ²
②	上山田 1683-68	学校用地	福岡県	20,294.00 m ²
③	上山田 1683-239	学校用地	福岡県	883.00 m ²
合計				22,155.00 m ²